

## WYD リスボン大会に参加して

岡 雅

今回、私が WYD リスボン大会に参加して、体験したことや何を感じたのか学んだのかを記述していきます。

私は、心の準備が十分にできていない状態で、WYDに参加しました。深く WYD について考えることなく、飛行機に乗り、ポルトガルに到着しました。京都教区で行動するのではなく、7つのグループに分かれて、他の教区の人たちと一緒に行動する事ことを知った時は 驚き、そこで大きな不安を感じました。仲良くできるだろうか、何の準備もできていないこんな軽い気持ちで最後までやっていけるのかなど、多くの不安が押し寄せてきました。

コインブラにつくと、すぐに現地の人々が音楽で私たちを歓迎してくださいました。コインブラで、私が特に印象に残っていることは、ユース・フェスティバルです。そこで初めて様々な国の人と出会い、交流しました。そこで出会った人々は皆、誰も初めて出会ったような感覚ではなく、まるで昔から知っていたような感覚でした。コインブラは環境も人もみんな温かく最後の日は離れるのが嫌なくらい大好きな場所になっていました。

ファティマでは、ロザリオの祈りをしながら、マリア様の現れた場所を感じました。日本にはないような聖堂に圧倒されたのを覚えています。ファティマでの滞在時間は短く、もう少し滞在してもっとじっくりと見て回りたかったです。

リスボンでは、Rise up が3日間行われました。その中で1番心に残っているのは、3日目に行われた慈しみをテーマにした Rise up です。私のグループにいた人が、所持金があと少ししかなく、ぼそっと「もうお金が少しかない」と言うと、周りの人たちが別に返さなくてもいいからとその人にお金をくれたそうです。見返りを求めない心からの思いやりのある行動や優しさが慈しみであり、その慈しみは私たちが気づけていないだけで、無意識にしていたり、されていたりするのだなと思いました。リスボンで1番過酷だったのは、本大会での徒歩巡礼と会場での野宿です。とても暑い中を約 10km、高速道路など水分補給をする 所もないような道をひたすら歩き続けました。その途中でも多くの人々と出会い言葉を交わしたり、歌を歌ったり、水や食べ物を分けたりしながら支え合って会場まで向かいました。会場でも食べ物がすぐに手に入らなかったり、昼間と夜の寒暖差が激しかったりしました。しかし、日本巡礼団の人々や、出会った外国の人々と共に過ごしていることで、その過酷さを強く感じることなく過ごすことができました。

私は、この経験を通して、神様から与えられていた試練のようなものが日に日に大きくなっていて感じています。私は、その試練が何なのかをこの WYD で理解することができませんでした。しかし、私がこの WYD に参加していなかったら、その試練にすら気づくことができなかつたと思います。幼児洗礼で物心つく前から、キリスト者としてなんとなく生きてきましたが、この WYD で自分の信仰を見直し、これから自分が自分の意思でキリスト者とし

て生きる道を歩み続けたいと思っています。WYD を通して得た仲間たちや経験を忘れることなく、これから自分の中にある試練が何なのかを突き止めていきたいです。

たった2週間だけど、苦楽を共にした日本巡礼団のみんなは信じられないくらい大好きで、大切な存在です。